平成29年度実施施策に係る事前分析表

(文部科学省 29-8-1)

施策名	科学技術イノベーションを担う人材力の強化
施策の概要	天然資源に乏しい我が国にとって、科学技術と人材こそが唯一の資源である。未来を創る若手研究者等の支援の強化を図るため、自立的な研究環境の整備、若手研究者等が能力を発揮できる環境整備を支援するとともに、理数分野において優れた素質を持つ児童生徒を発掘して、その能力を伸ばすための取組を推進する。

達成目標 1	れ、活躍でき	る環境が整備	される。			/を担う多様な に関連する達	
達成目標 1 の 設定根拠	とらわれない 学技術基本計	柔軟な思考と	斬新な思想を持	持つ人材を育成	・確保すること	こ加え、従来の とが不可欠であ 等の育成や活躍	り、第5期科
測定指標	基準値			実績値			目標値
例だ相保	25 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	32 年度
	43,763 人	_	43,763 人	1	_	調査中	対 25 年度 比 1 割増
①40 歳未満の大学本 務教員数	年度ごとの 目標値	_	_	-	_	_	
【AP 関連項目関連: 文教・科学技術分野 ③】	目標値の 設定根拠	立的に研究を 画において、	:行う環境も十	分に整備され [~] 画期間中に、4	ていないことか 0 歳未満の大学		学技術基本計
測定指標	基準値			実績値			目標値
例だ16条	28 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	32 年度
	4.1	_	_	-	_	4.1	4.0
②若手研究者に自立 と活躍の機会を与え	年度ごとの 目標値	_	_	1	_	_	
るための環境整備の 状況に関する指数 (科学技術の状況に 係る総合的意識調査 (科学技術・学術政 策研究所)より)	目標値の 設定根拠	立的に研究を 画において、 きる環境を整	:行う環境も十 「若手研究者が S備する」とされ	分に整備され キャリアの段 れている。これ	ていないことか 階に応じて高い を踏まえ、若ヨ		学技術基本計 最大限発揮で を促進するた
米明 /加/// より/	指標の根拠	大学等研究機 おいて調査・		究者等の意識を	を数値化し、科	学技術・学術	政策研究所に
測定指標	基準値			実績値			目標値
	28 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	毎年度
③公募時の卓越研究 員予定人数に対する	5.7	_	_	_	_	5.7	3 倍以上
申請者数の割合 【AP 関連項目関連:	年度ごとの 目標値	_	_	_	_	3	

		ı					
文教・科学技術分野 ③】	目標値の 設定根拠	立的に研究を 画において、 自由な研究環 を図る」とさ	行う環境も十 「優れた若手研 境の下で活躍 れている。これ	分に整備されて で者に対して できるようにて とを踏まえ、若	用が不安定なりているない。 では、安にとかないないでは、安定したります。 でのでではいいでは、 でのででは、 でいるがない。 でいるでは、 でいるとでは、 でいるでは として でして。 でいるでは、 でい。 でいるでは、 でい。 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でし。 でしるでは、 でしるでは、 でしるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるで。 とでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でし。 でい。 でい。 でい。 でい。 でい。 でし。 でい。 でい。 でい。 でい。 でし。 でし。 でし。 でい。 でし。 でし。 でし。 でし。 でし。 でし。 でし。 でし。 でし。 でし	いら、第5期科 ポストに就きな まを創設し、若 ごかつ自立して	学技術基本計 がら独立した 手支援の強化 研究できる環
	指標の根拠		究員事業への				
ᄁᄱᅥᅷᆉᆉᆉ	基準値			実績値			目標値
測定指標	一年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	毎年度
	_	58 機関	69 機関	88 機関	調査中	調査中	対前年度比 増
④大学等におけるリサーチ・アドミニス	年度ごとの 目標値	前年度 以上	前年度 以上	前年度 以上	前年度 以上	前年度 以上	
トレーター組織の整 備状況	目標値の 設定根拠	られることか	組織を整備すいら、左記指標を目標値として	を設定し、毎年	することが、目 手度着実にUR つである。	標達成に資す A組織を整備	る成果と考えする機関数が
细令拉锤	基準値			実績値			目標値
測定指標	_	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	毎年度
	_	4		00 F E - + 10	应体 (***)		対前年度比 増
	年度ごとの	手	・美開始か半成	29 年度であり	、実績値なし。		
	目標値						
⑤起業あるいは技 術・アイディアの実 用化に向けたビジネ スコンテストへ参加 するプロジェクト数	目標値 目標値の 設定根拠	重点 6. 学生ライク (1) では、 学生ライク (1) では、	性 2】子供たす。 ・若手研究者の ディアと画い技の 育成事業化で が、 が が が が が が が が が が が が が	のベンチャーマ 術力を駆使し乳 あるとの背景ス 向を身に付ける 業界等に飛びい とし、29 年度に で支援してイディ 技術・アイディ	き手・女性・社 大学の 大学の 大学 大が 大が 大が 大が 大が 大が 大が 大が 大が 大が 大が 大が 大が	とのできる付 材育成戦略に が成プログラム 引事業に挑戦で プログラムの開 て世代アントレ いか実行する に向けたビジネ	おいて「実施 の開発・対を を 対し が が が が が が が が が が が が が が が が が が
術・アイディアの実 用化に向けたビジネ スコンテストへ参加	目標値の	【戦略6.アケー 大学で成をの学生がある。ア人マ、大学では、図ロは、ア人マ、ためのでは、とるが、のでは、というのでは、ないでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、な	性 2】子供たす。 ・若手研究者の ディアと画い技の 育成事業化で が、 が が が が が が が が が が が が が	のベンチャーマ 術力を駆使し乳 あるとの背景ス 向を身に付ける 業界等に飛びい とし、29 年度に で支援してイディ 技術・アイディ	・インドの育成 実用へと導くこから大学の大学の大学の人材や新規 いる人材がでいる人材ではいいのでは、 から実がしているができるが いった。 でいまがいまれているが、 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。	とのできる付 材育成戦略に が成プログラム 引事業に挑戦で プログラムの開 て世代アントレ いか実行する に向けたビジネ	おいて「実施 の開発・対を を 対し が が が が が が が が が が が が が が が が が が
術・アイディアの実 用化に向けたビジネ スコンテストへ参加 するプロジェクト数	目標値の 設定根拠	【戦略6.アケー 大学で成をの学生がある。ア人マ、大学では、図ロは、ア人マ、ためのでは、とるが、のでは、というのでは、ないでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、な	性 2】子供たす。 ・若手研究者の ディアと画い技の 育成事業化で が、 が が が が が が が が が が が が が	のベンチャーマ 術力を駆使しる あるとの背景が 向を身に付ける 業界等に飛びら さし、29年度だ で支援・アイディ 技術・実に増える	・インドの育成 実用へと導くこから大学の大学の大学の人材や新規 いる人材がでいる人材ではいいのでは、 から実がしているができるが いった。 でいまがいまれているが、 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。	とのできる付 材育成戦略に が成プログラム 引事業に挑戦で プログラムの開 て世代アントレ いか実行する に向けたビジネ	おいて「実を の開る・実ナイン が開る・実ナイン が表すが、 でででででででできる。 「要になった」では、 は、 は、 では、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、
術・アイディアの実 用化に向けたビジネ スコンテストへ参加 するプロジェクト数	目標値の 設定根拠 基準値 22 年度 71,797 人	【戦略の方向 重点 6. アケー 理点 6. アイケー で、ア人マー、大の で、アールで、とるで、アールで、とるで、アールで、とるで、アールで、アールで、イールで、クロールでは、アールで、アールで、アールで、アールで、アールで、アールで、アールで、アールで	性 2】子供たた。 ・若手研究者の ディアと高い技 で成事業化で がやないまで がある。これを受 左記指標を設 をDGE-NEXT) 起業あるいは プロジェクト数 25 年度 80,211 人	nベンチャーマ 術力を駆使し あるとので付け 表別では 大学に で 大学に で 支援 で 大学 で 大学 で 大学 で 大学 で 大 で 大 大 で 大 で 大 で	マインドの育成 実用へと導くこ から、世界と いる大学の人材で いる人材を いる人材を いると に いると に いると に いると に いると に いると に いると に いると に いると に いると に いると に いる に いる	とのできる付 材育成戦略に 所成プログラム 記事業に挑戦で プログラムの勝 て世代アントレ ムが実行する に向けたビジネ 目標値とする 28 年度 87,630 人	おいて「実を の開る人 は は は は は は は は は は は は は は は は は は は
術・アイディアの実 用化に向けたビジネ スコンテストへ参加 するプロジェクト数	目標値の 設定根拠 基準値 22 年度	【戦略 6. アトウェ 1 を成った 1 を 1 を 1 を 2 を 2 を 2 を 2 を 2 を 2 を 2 を	性 2】子供たた。 ・若手研究者の ディアと高い ・若手と ・若手と ・ ・若手と ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	nベンチャーマット が力を駆すける。 が力を身等大きながった。 が対し、29年にが表すで、 を対し、接いでは、 変が表すでは、 変が表すでは、 変が表する。 では、 変がまする。 では、 変がまする。 では、 変がまする。 では、 変がまする。 では、 変がまする。 では、 変がまする。 では、 変がまする。 のに、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	マインドの導くストラック (インドの導く系) では、 実用、、学のでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	とのできる付 材育成戦略に 所成プログラム 記事業に挑戦で プログラムトレ と世代アントする に向けたビジネ 目標値とする	おいて 「
術・アイディアの実 用化に向けたビジネ スコンテストへ参加 するプロジェクト数	目標値の 設定根拠 基準値 22 年度 71,797 人 年度ごとの	【電新理チを成をプ取への。ア人マ、さたラよりるの。ア人マ、さんラよりでは、10、アールとのでは、24年のの格で、では、77、394年と、10、アールの格で、第9年の格で、10、アールのでは、10、アールのでは、10、アールのでは、10、アールのでは、10、アールの格では、10、アールの格では、10、アールの格では、10、アールの格が、10、アールの格が、10、アールの格ができます。10、アールの格が、10、アールの格が、10、アールの格が、10、アールの格が、10、アールの格が、10、アールの格ができます。10、アールの格が、10、アールののでは、10、アールののでは、10、アール	性 2】子供たた。 ・若手とが事となる。 ・子ので、発る。 ・子ので、発える。 ・子ので、そので、 ・子ので、 ・で、 ・で、 ・で、 ・で、 ・で、 ・で、 ・で、 ・で、 ・で、 ・	かだいた。 かがあいでは、 かがあいでは、 かがあいでは、 ががあいでは、 ががあいでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	・インドの 実用、 実用、 実用、学の 学の大学の がる大む人 がいる 大むる 大むる 大が 大が 大が で で で で で で で で で の の の の の の の の の の の の の	とのできる付に 対育の成 対す 対す で で で で で で で で で に の に と に と に と に と に と に と に と に と に と に と に と に に と に と に に に と に と に と に と に に に と に と に に に に と に に に に に に に に に に に に に	おのき発ププスも い開る・レロコの に乗を状育ムスる。 「年 年 増 はす) に資値 に変値 に変が、 となばす) に対したが、 はず) はず) はなが、 はながが、 はなが、 はなが、 はながが、 はながが、 はながが、 はながが、 はながが、 はながが、 はながが、 はなががが、 はながが、 はながが、 はながが、 はなががが、 はながががががががががががががががががががががががががががががががががががが
術・アイディアの実 用化に向けたビジネ スコンテストへト数 するプロジェクト数 測定指標 ⑥技術士登録者数	目標値の 設定根拠 基準値 22 年度 71,797 人 年度ご値 目標値の	【重新理チを成をプ取への、ア人マ、さをプロ組参 を1、第一進とるグに加 の、ア人マ、さをプに加 を24 年 1 一 第一 1 一 2 一 2 一 2 一 2 一 2 一 2 一 2 一 2 一 2	性 2】子供たた。 ・若手とが事となる。 ・子ので、発る。 ・子ので、発える。 ・子ので、そので、 ・子ので、 ・で、 ・で、 ・で、 ・で、 ・で、 ・で、 ・で、 ・で、 ・で、 ・	かだいた。 かがあいでは、 かがあいでは、 かがあいでは、 ががあいでは、 ががあいでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	マインドと 実的 大いる 大いる 大いる 大いる 大いる 大いる 大いる 大いる	とのできる付に 対育の成 対す 対す で で で で で で で で で に の に と に と に と に と に と に と に と に と に と に と に と に に と に と に に に と に と に と に と に に に と に と に に に に と に に に に に に に に に に に に に	おのき発ププスも い開る・レロコの に乗を状育ムスる。 「年 年 増 はす) に資値 に変値 に変が、 となばす) に対したが、 はず) はず) はなが、 はながが、 はなが、 はなが、 はながが、 はながが、 はながが、 はながが、 はながが、 はながが、 はながが、 はなががが、 はながが、 はながが、 はながが、 はなががが、 はながががががががががががががががががががががががががががががががががががが
術・アイディアの実 用化に向けたビジネ スコンテストへ参加 するプロジェクト数 測定指標	目標値の 設定根拠 基準値 22 年度 71,797 人 年度ご値 目標値の 関定根拠	【重新理チを成をプ取への、ア人マ、さをプロ組参 を1、第一進とるグに加 の、ア人マ、さをプに加 を24 年 1 一 第一 1 一 2 一 2 一 2 一 2 一 2 一 2 一 2 一 2 一 2	性 2】子供たた。 ・若手とが事となる。 ・子ので、発る。 ・子ので、発える。 ・子ので、そので、 ・子ので、 ・で、 ・で、 ・で、 ・で、 ・で、 ・で、 ・で、 ・で、 ・で、 ・	の () () () () () () () () () (マインドと 実的 大いる 大いる 大いる 大いる 大いる 大いる 大いる 大いる	とのできる付に 対育の成 対す 対す で で で で で で で で で に の に と に と に と に と に と に と に と に と に と に と に と に に と に と に に に と に と に と に と に に に と に と に に に に と に に に に に に に に に に に に に	おのき発ププスも い開る・レロコの に乗を状育ムス。 に実を状育ムス。 値度度 にならしも に変値る にならい。 が成(実定 が成(実定) が成(実定) が成(実定) が成(実定)
術・アイディアの実 用化に向けたビジネ スコンテストへト数 するプロジェクト数 測定指標 ⑥技術士登録者数	目標値の 設定根拠 基準値 22 年度 71,797 人 年度目標値 を関係で を関係で を関係で を関係で を関係で を関係で を関係で を関係で	【重新理チを成をプ取への、ア人マ、さたラよりるの、ア人マ、さんラよりでは、1では、11	性 2】子供たた。 ・若子供える。 ・若子とが事ンとで、 ・子ので、 ・子ので、 ・子ので、 ・子ので、 ・子ので、 ・子ので、 ・子ので、 ・子ので、 ・子ので、 ・子ので、 ・子ので、 ・子ので、 ・子ので、 ・子ので、 ・子ので、 ・子ので、 ・一で、 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	の が が が か が か の に の で 技が を と 身等大、 29 大、 29 大、 29 大、 18 大、 28 大 28 28 大 28 28 大 28 28 大 28 大 28 大 28 28 大 28 大 28 大 28 大 28 大 28 28 大 28 大 28 大 28 大 28 28 28 28 28 28 28 28 28 28	インドと大むるとけかるったイ用ら大むる実ンのと27 年 別 所 要 末 度育工人材新成りでのと27 年 別 所 要 末 度育工人材新成りでのの27 年 上 力 でののの成こ人育財 が年 年基 あ 技 度日のが年 年基 あ 技 月 を と日のが年 年基 の が 年 度日のが年 年基 の が 年 度日のが 年 度基 の が 年 度日のが 年 度基 の か け き日の が 年 度基 の が 年 度日の が 日 度基 の が ま 度 <t< td=""><td>とので 対育な 対対 で 対対 で で で で で で が で に な で に な で に な に な に な に な に な に な に な に と と と と と に も に と に も に に も に も に に も に も に に も に に も に に に に に に に に に に に に に</td><td>おのき発ププスも い開る・レロコの い開る・レロコの で 目 毎 前 に養す に実を状育ムスる。値 度 度 に変値る 標 にすりも 標 にすりも 標 にすりも 標 といるをの 値</td></t<>	とので 対育な 対対 で 対対 で で で で で で が で に な で に な で に な に な に な に な に な に な に な に と と と と と に も に と に も に に も に も に に も に も に に も に に も に に に に に に に に に に に に に	おのき発ププスも い開る・レロコの い開る・レロコの で 目 毎 前 に養す に実を状育ムスる。値 度 度 に変値る 標 にすりも 標 にすりも 標 にすりも 標 といるをの 値

我が国の女性研究者数は増加傾向にあるが、その割合は、諸外国と比較して、なお低い水準にあり、第5期科学技術基本計画において、「女性研究者の新規採用割合については、第4期科学技術基本計画が掲げた上記の目標値(注:自然科学系全体で30%)について、第5期科学技術基本計画期間中に速やかに達成すべく、国は、関連する取組について、産学官の総力を結集して総合的に推進する。」とされていることから、目標値として設定するものである。

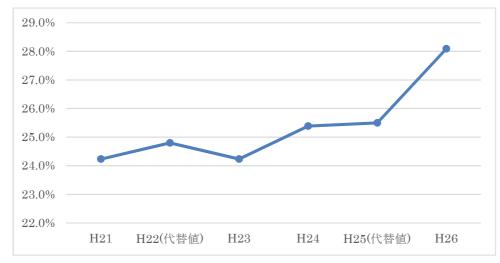
おお国の女性研究者数は増加傾向にあるが、その割合は、諸外国と比較して、なお低い水準にあり、毎年研究者の新規採制を開催した。「女性の自然科学系における新規採用教員数分子:上記のうち女性教員数

施策・指標に関するグラフ・図等

|測定指標①40歳未満の大学本務教員数(出典:学校教員統計調査(文部科学省))



測定指標⑦大学の自然科学系における女性研究者の新規採用割合(出典:値及び代替値はそれぞれ「大学における教育内容等の改革状況について(調査)」、「学校教員統計調査」を元に集計(文部科学省))



達成手段 (事業) 平成 29 年度当初予算額 名 称 行政事業レビュー (平成28年度予算額) APとの関係 (開始年度) 事業番号 【百万円】 【AP の KPI(公募時の卓越研究 科学技術に関する人材の養成・ 員予定人数に対する申請者の割合 活躍促進 (うち「データ関連人材育成プ 【2018年度: 3倍以上】 【2020年 度:3倍以上】)、(国立大学の若手 ログラム」及び「EDGE-4,956 (40歳未満)の本務教員数【2018 0205 NEXT」を除く) (4.009)年度:2015年度比+300人【2021 (平成 23 年度) 年度: 2015 年度比+600 人】) に 【AP 関連項目関連: 文教・科 貢献するものの一つの事業であ 学技術分野③】 る。】

科学技術に関する人材の養成・ 活躍促進 (うち「データ関連人材育成プ ログラム」のみ) (平成 29 年度)	213 (-)	_	新 29-0021
科学技術に関する人材の養成・ 活躍促進 (うち「EDGE-NEXT」のみ) (平成 29 年度)	330 (-)	_	新 29_0020
科学技術分野の文部科学大臣表 彰 (昭和 34 年度)	24.7 (24.7)	_	0208
国立研究開発法人科学技術振興 機構運営費交付金に必要な経費 (平成 15 年度)	101,869 (100,888)	_	0179
国立研究開発法人科学技術振興 機構施設整備に必要な経費 (平成 21 年度)	48 (0)	_	0180
独立行政法人日本学術振興会運 営費交付金に必要な経費 (平成 15 年度)	26,712 (26,708)	_	0193
	達成手」 (独立行政法人		
名 称 (開始年度)	平成 29 年度当初予算額 (平成 28 年度予算額) 【百万円】	事業の概要	
国立研究開発法人科学技術振興 機構運営費交付金に必要な経費 研究人材キャリア情報活用支援 事業 (平成 15 年度)	JST 運営費交付金(一般会計): 101,869 の内数 (100,888 の内数)	科学技術イノベーション創出を担うストドクター、研究者及び技術者等場の拡大を促進するため、産学官選発に資する情報の提供と活用の支援人材 DB と連携することで、博士設様な情報の提供と活用の支援を行う	の高度人材の活躍の 連携の下、キャリア開 受を行う。また、博士 課程学生の段階から多
国立研究開発法人科学技術振興 機構運営費交付金に必要な経費 プログラム・マネージャー (PM) の育成・活躍推進プロ グラム (平成 27 年度)	JST 運営費交付金(一般会計): 101,869 の内数 (100,888 の内数)	我が国の優秀な人材層に、イノベー んだ研究開発プログラムの企画・ という新たなイノベーション創出人 機関等で活躍するキャリアパスを携	旅行等を担う「PM」 、材モデルと資金配分
独立行政法人日本学術振興会運 営費交付金に必要な経費 特別研究員事業 (昭和 60 年度)	JSPS 運営費交付金(一般 会計): 26,712 の内数 (26,708 の内数)	優れた若手研究者に対して、その研 て、自由な発想のもとに主体的に研 ら研究に専念する機会を与えるため 採用・支援することで、我が国の学 創造性に富んだ研究者の養成・確保	F究課題等を選びなが ○、特別研究員として 全術研究の将来を担う
平成 28 年度評価		_	
からの変更点			

達成目標 2	初等中等教育その能力・才	及び大学教育段階を通じて、次代の科学技術イノベーションを担う人材 能の伸長を促すとともに、理数好きの児童生徒の拡大を図る。	けの育成を図り、
達成目標 2 の 設定根拠	する児童生徒 画においても	技術イノベーション力を持続的に向上していくためには、次代を担うでを発掘し、継続的・体系的に育成していくことが必要であり、第 5 期 、「次代の科学技術イノベーションを担う人材の育成を図り、その能力 、理数好きの児童生徒の拡大を図る」ことが求められているため。	科学技術基本計
測定指標	基準値	実績値	目標値

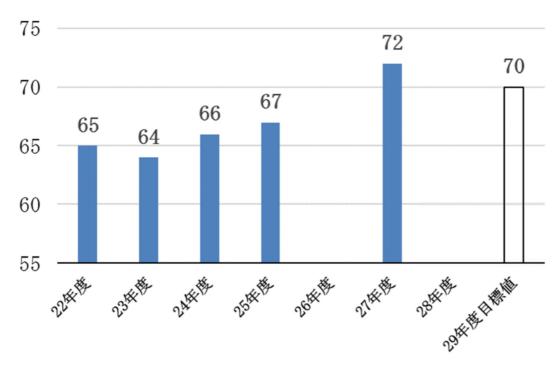
	19 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	30 年度
	60%	66%	67%		68%	68%	70%
	年度ごとの	66%	67%		68%	68%	70%
①SSH 出身の卒業生が「SSH 参加が現在の専攻分野選択に影響した」と回答した割合	目標値 目標値の 設定根拠	的・協働的な 攻分野選択に の成果の一つ ことから、平 年度の実績() 平成30年度()	学びを通じて、 影響を及ぼす である。その 成28年度実施 60%)から28 こ70%を達成で	科学的能力・ ことは、スーパ 上で、本指標に 値施策に係る事 年度の実績(68 「ることを目標	科学的思考力パーサイエンスパーサイエン またいては着実前分析表においまでの年間としたもの	等を培った経験ハイスクールに上昇するこれでは、基準年の.8%程度の上である。	じめとした主体 験が卒業後の専業 (SSH)支援事ある とが重要で成19 ことなる平成19 こ昇率を維持し、 したため算出不
	指標の根拠	分母: SSH 出 分子: 上記の	身の卒業生で)内、SSH 参加	当該設問に回答 が現在の専攻を	きをした数 分野選択に影響	したと回答した	た数
	基準値			実績値			目標値
測定指標	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	毎年度
	257	367	334	443	409	382	前年度以上
②サイエンス・インカ	年度ごとの 目標値	前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	
レに応募する学生数 (人)	目標値の 設定根拠	究に打ち込み ら、事業開始	、他の学生と 年度の平成 23	刃磋琢磨する意 年度を基準と	気欲を有する学 し、毎年度着領	技術分野におり生の増加を意味 生の増加を意味 実に増やしてい したものであ	味することか いくことを目指
2017 1 142 1222	基準値			実績値			目標値
測定指標	基準値 26 年度	25 年度	26 年度	実績値 27 年度	28 年度	29 年度	目標値 毎年度
測定指標	26 年度 理学部: 26.4% 工学部: 12.9%	25 年度	26 年度		28 年度 理学部: 27.0% 工学部: 14.0%	29 年度 理学部: 27.0% 工学部: 14.0%	
	26 年度 理学部: 26.4% 工学部:	25 年度 前年度以上	26 年度	27 年度 理学部: 26.7% 工学部:	理学部: 27.0% 工学部:	理学部: 27.0% 工学部:	毎年度
測定指標 ③大学(学部)の理工 系の学生に占める女性 の割合(%)	26 年度 理学部: 26.4% 工学部: 12.9% 年度ごとの	前年度以上 第4期男女共 女子中高生、 的にた上で、	前年度以上 同参画基本計 保護者、教員 るための取組	27 年度 理学部: 26.7% 工学部: 13.6% 前年度以上 画において「研 等における 次代 の理工系の学	理学部: 27.0% 工学部: 14.0% 前年度以上 研究職・技術職 対技術系の進路	理学部: 27.0% 工学部: 14.0% 前年度以上 に進む女性を への興味関心: 科学技術人材:	毎年度 前年度以上 増やすべく、 や理解を全国
③大学(学部)の理工 系の学生に占める女性	26 年度 理学部: 26.4% 工学部: 12.9% 年度ごとの 目標値	前年度以上 第4期男女共 女子中向上とででしたしたれてい 分母:文部科	前年度以上 同参画基本計 保護者、教員 るための取組 「大学 (学部)	27年度 理学部: 26.7% 工学部: 13.6% 前年度以上 画において「研算 を推進し、次の学 おける大学・等	理学部: 27.0% 工学部: 14.0% 前年度以上 所究職・技術職 対技術系の進路 を技術系の進路 生に占める女性の	理学部: 27.0% 工学部: 14.0% 前年度以上 に進む女性を に進む女性を にの興味関心・ 科学技術人材 生の割合」が成	毎年度 前年度以上 増やすべく、 や理解を全国 を育成する」
③大学(学部)の理工 系の学生に占める女性 の割合(%)	26年度 理学部: 26.4% 工学部: 12.9% 年度ごとの 目標値 目標値の 設定根拠	前年度以上 第4期男女共 女子中向上とででしたしたれてい 分母:文部科	前年度以上 同参画基本計 保護者、取取組 「大学のである。 学統計要覧に	27年度 理学部: 26.7% 工学部: 13.6% 前年度以上 画において「研算 を推進し、次の学 おける大学・等	理学部: 27.0% 工学部: 14.0% 前年度以上 所究職・技術職 対技術系の進路 を技術系の進路 生に占める女性の	理学部: 27.0% 工学部: 14.0% 前年度以上 に進む女性を に進む女性を にの興味関心・ 科学技術人材 生の割合」が成	毎年度 前年度以上 増やすべく、 や理解を全国 を育成する」
③大学(学部)の理工 系の学生に占める女性	26 年度 理学部: 26.4% 工学部: 12.9% 年度ごとの 目標値 目標値の 設定根拠	前年度以上 第4期男女共 女子中向上とででしたしたれてい 分母:文部科	前年度以上 同参画基本計 保護者、取取組 「大学のである。 学統計要覧に	27 年度 理学部: 26.7% 工学部: 13.6% 前年度以上 画において「研算と を推進し、次学 おける大学・等 生数	理学部: 27.0% 工学部: 14.0% 前年度以上 所究職・技術職 対技術系の進路 を技術系の進路 生に占める女性の	理学部: 27.0% 工学部: 14.0% 前年度以上 に進む女性を に進む女性を にの興味関心・ 科学技術人材 生の割合」が成	毎年度 前年度以上 増やすべく、 や理解を全国 を育成する」
③大学(学部)の理工 系の学生に占める女性 の割合(%)	26年度 理学部: 26.4% 工学部: 12.9% 年度ごとの 目標値 設定根拠 指標の根拠 基準値	前年度以上 第4期男女共 女子中上さで、 的したたれて 分母・ 大子・ 上記の	前年度以上 同参画基本計 保護者、教員 るための取組 「大学 (学部) るためである。 学統計要覧に 内、女性の学	27 年度 理学部: 26.7% 工学部: 13.6% 前年度以上 画において「研算を推進し、次の理工系の学 おける大学・等 生数 実績値	理学部: 27.0% 工学部: 14.0% 前年度以上 研究職・技術職 対を推う女性の 生に占める女性	理学部: 27.0% 工学部: 14.0% 前年度以上 に進む女性を への興味関心・ 科学技術人材・ 生の割合」が成 学) 学生数	毎年度 前年度以上 増やすべく、 や理解を含して を育成する」 は果目標として
③大学(学部)の理工系の学生に占める女性の割合(%) 測定指標	26 年度 理学部: 26.4% 工学部: 12.9% 年度ごとの 目標値 目標値の 設定根拠	前年度以上 第4期男女共 女子中向上さで、い と定めらしたとれて 分子:上記の 24年度	前年度以上 同参画基本計 保護者、の取組 「大学 (学部) るためである。 学統計要覧に 内、女性の学	27 年度 理学部: 26.7% 工学部: 13.6% 前年度以上 画において「研算を推進し、次の理工系の学 おける大学・等 生数 実績値	理学部: 27.0% 工学部: 14.0% 前年度以上 研究職・技術職 対を担う女性の 生に占める女性 全球ではいる女性の 生に占める女性の 全球ではいる女性の	理学部: 27.0% 工学部: 14.0% 前年度以上 に進む女性を への興味関心・ 科学技術人材: 生の割合」が成 学) 学生数	毎年度 前年度以上 曽やすべく、 や理解をする」 な果目標として 目標値 毎年度
③大学(学部)の理工 系の学生に占める女性 の割合(%) 測定指標	26年度理学部: 26.4% 工学部: 12.9%年度ごとの 目標値の 設定根拠指標の根拠基準値 ー 年度ごとの	前年度以上 第4期男女生、 4期男を生さでて からした。 分子: かりとこの か分子: 上記の 24年度 79% ー本指通じ、平 はたり、 ない という ではたい ではたい ではたい ではたい ではたい ではたい ではたい ではたい	前年度以上 同参画基本計 保護者の取組: 「大学(学部) るためである。 学統計要覧に 内、女性の学 25年度 80% ー 指定校技術に	27 年度 理学部: 26.7% 工学部: 13.6% 前年度以上 画におおけしる次の を推進工系の さける 実績値 26 年度 - を対すしている次学 き数 実績値 26 年度 - を対すしている80 た対すしている80 た対すしている80 た対すしている80 た対すしている80 た対すしている9 と対すしている9 と対する9 と対する9 と対する9 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	理学部: 27.0% 工学部: 14.0% 前年度以上 研究職・技術職 対を担う女性の 生に占める女性 全球術系の性の 生に占める女性 全部(理学・エ 27 年度 89% ー 電心・)とを達成	理学部: 27.0% 工学部: 14.0% 前年度以上 に進む女性を にの興味関心・ 科学技術人材 生の割合」が成 学)学生数 28年度 87% ー くもので、SSI まりを直接的	毎年度 前年度以上 曽やすべく、国を育用標とするとして は果目標をするして 日標値 毎年度 80%以上 日指定校在学中

測定指標	基準値			実績値			目標値
例是相保		24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	30 年度
	_	小:56.1% 中:55.5%	_	_	小: 58.4% 中: 59.2%	_	対前回比増
⑤全国学力・学習状況	年度ごとの 目標値	_	_		_		
調査の結果 前年度に 理科室で観察や実験を する授業を1クラス当 たり「週1回以上行っ た」と回答した学校の	目標値の 設定根拠	験を重視して かを評価する	いることから、ため、全国学	理科の授業に カ・学習状況訓	は見方や考え方 こおいて観察や 間査の同項目の 目標値とするこ	実験の機会が認識査結果を指	増加している
割合 (%)	指標の根拠	分子:上記の		理科室で観察や	ミ施した学校数 P実験をする授		当たり「週1
測定指標	基準値			実績値			目標値
侧足相棕	_	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	30 年度
	_	小:81.7% 中:61.9%	_	_	小:83.7% 中:62.0%	_	対前回比増
⑥全国学力・学習状況	年度ごとの 目標値	_	_	_	_	_	
調査の結果 「理科の 勉強が好きだ」と回答 した児童・生徒の割合 (%)	目標値の 設定根拠	関心・意欲を		ものであるため	詰果は、児童・ ひ、これを指標 ことした。		
	指標の根拠				間に回答をした と回答した数。	数。	

施策・指標に関するグラフ・図等

測定指標①SSH 出身の卒業生が「SSH 参加が現在の専攻分野選択に影響した」と回答した割合(%)(①の出典:SSH 意識調査報告書に基づき文部科学省で作成)

(%)



名 称 (開始年度)	平成 29 年度当初予算 額 (平成 28 年度予算額) 【百万円】	事来) AP との関係	平成 29 年度行政事業レ ビュー事業番号
科学技術に関する人材の育成・ 活躍促進 (平成 23 年度)	6,145 (4,009)	_	0205
スーパーサイエンスハイスクー ルにかかる事務費 (平成 14 年度)	3.0 (3.0)	_	0206
理数教育等設備整備費補助等 (昭和 29 年度)	2,033 (2,034)	_	0207
国立研究開発法人科学技術振興 機構運営費交付金に必要な経費 (平成 15 年度)	101,869 (100,888)	_	179
		成手段 対法人の事業)	
名 称 (開始年度)	平成 29 年度当初予算額 (平成 28 年度予算額) 【百万円】	事業の概要	
スーパーサイエンスハイスクー ル(SSH)支援事業 (平成 15 年度)	2,219 (2,155)	先進的な理数教育を実施している高イエンスハイスクール(SSH)」に打て、生徒の科学的能力や科学的思考的な科学技術関係人材の育成を図る	肯定し支援することによっ 力等を培い、将来の国際
科学技術コンテストの推進 (平成 15 年度)	695 (699)	理数系の意欲・能力が高い中高生だい、相互に研鑽する場を構築・支援	
グローバルサイエンスキャンパ ス (平成 15 年度)	644 (625)	将来グローバルに活躍しうる次世代を育成するために、大学の場を活用 生を育成。	
中高生の科学研究実践活動推進 プログラム (平成 15 年度)	90 (125)	中高生の科学部活動の取組等を支援 ら課題を発見し、科学的手法に従っ 創出するとともに、教育委員会が大 指導力の向上を図るため、最先端の 法等を習得する機会を創出。	て進める探究活動の機会を 学等と協働し、教員の研究
女子中高生の理系進路選択支援 プログラム (平成 15 年度)	45 (30)	女子中高生の理系分野への興味・関 の選択を可能にするため、地域や企 実施する大学等を支援。	
ジュニアドクター育成塾 (平成 15 年度)	100 (0)	理数・情報分野で特に意欲や突出し 学生を対象に、大学等が特別な教育 能力等の更なる伸長を図る。	
平成 28 年度評価 からの変更点		_	
行政事業レビューとの 連携状況		_	

		施策の予算額 (※政策評価調書に			
		27 年度	28 年度	29 年度	30 年度要求額
	当初予算		8,206,505 ほか復興庁一括 計上分 0 <127,596,964> ほか復興庁一括 計上分<0>	7,520,155 ほか復興庁一括 計上分 0 <128,628,900> ほか復興庁一括 計上分<0>	9,556,914 ほか復興庁一括 計上分 0 <147,629,370> ほか復興庁一括 計上分<0>
予算の状況 【千円】 上段:単独施策に係る予算 下段:複数施策に係る予算	補正予算			0 ほか復興庁一括 計上分 0 <0> ほか復興庁一括 計上分<0>	
	繰越し等				
	合 計				
執行額 【千円】					

	施策に	こ関係する内閣の重要政策
		方針演説等のうち主なもの)
名 称	年月日	関係部分
第 5 期科学技術基本計画	平成 28 年 1 月 22 日	第4章 科学技術イノベーションの基盤的な力の強化 (1)人材力の強化 ① 知的プロフェッショナルとしての人材の育成・確保と活躍促進 i)若手研究者の育成・活躍促進 iv)次代の科学技術イノベーションを担う人材の育成 ② 人材の多様性確保と流動化の促進 i)女性の活躍促進
科学技術イノベーション 総合戦略 2015	平成 27 年 6 月 19 日	第2部第1章3.(1)<重点的取組> ○若手人材のキャリアパスの確立 ○女性の参画の促進
科学技術イノベーション 総合戦略 2016	平成 28 年 5 月 24 日	 ○ 科学技術イノベーション総合戦略 2016 第3章 科学技術イノベーションの基盤的な力の強化 [C] 重きを置くべき取組 II 人材の多様性確保と流動化の促進(略) 【重きを置くべき取組】 I 知的プロフェッショナルとしての人材の育成・確保と活躍促進 II 人材の多様性確保と流動化の促進 ○女性の活躍促進
日本再興戦略 改訂 2015 未来への投資・生産性 革命	平成 27 年 6 月 30 日	第二. 一. 3 (3) 新たに講ずべき具体的施策 i) イノベーション・ナショナルシステムの実装 ①国立大学経営力戦 略 ウ) (P.87)
第2期教育振興基本計画 について(答申)	平成 25 年 4 月 25 日	14-2 理数系人材の養成(7-1-1) 15-1 独創的で優秀な研究者等の養成(7-1-2)
経済・財政再生アクショ ンプログラム - "見え る化"と"ワイズ・スペ ンディング"による「エ 夫の改革」-	平成 27 年 12 月 24 日	3. 主要分野毎の改革の取組 [4] 文教・科学技術、外交、安全保障・防衛等 (2)国立大学・応用研究への民間資金の導入促進及び予算の質の向上・ 重点化

主管課 (課長名)	科学技術・学術政策局 人材政策課 (塩崎 正晴)
関係課(課長名)	初等中等教育局 教育課程課 (淵上 孝) 科学技術・学術政策局 産業連携・地域支援課 (坂本 修一) 研究振興局 振興企画課 (渡辺 正実)

評価実施予定時期
